

紫明の窓

vol. **22**
2023.5

京都鞍馬口医療センター 院内報 2023年5月 第22号

発行：京都鞍馬口医療センター 編集：広報委員会

- ◆ 「紫明の窓」からの
眺望のご案内 (副院長 山下哲郎)
- ◆ 今月号の窓 放射線部
- ◆ 新医師紹介
- ◆ 新人職員オリエンテーション
- ◆ 市民公開講座
- ◆ 熱中症予防について

【基本方針】

- 患者さんの権利を尊重し、人間愛を基に温かい医療に努めます
- 安全で安心できる質の高い医療に努めます
- 十分な説明と同意をもとに透明性のある医療に努めます
- 地域の中核病院として医療・福祉施設、公的機関と連携し、地域医療・包括ケアの充実に努めます
- 適正な保険診療、地域の保健予防活動、住民の健康教育に努めます
- 医療人としての自らの研鑽に努め、後進の医療人育成に努めます

【受診される皆さんの権利】

1. 人間としての尊厳を尊重され、平等で適切な医療が受けられます
2. 担当医師や医療スタッフの名前や資格を知ることができます
3. 病気や治療について十分な説明が受けられ、セカンドオピニオンも受けられます
4. 治療内容を自らの自由な意志に基づいて選択することができます
5. 臨床研究や治療計画を事前を知ること、参加を拒否することができます
6. 皆様に守っていただく当院の規則を知ることができます
7. 当院が知り得た個人情報を守られます



「紫明の窓」からの眺望のご案内

JCHO 京都鞍馬口医療センター 副院長 山下 哲郎



皆様こんにちは。令和4年4月より副院長を拝命しております、山下哲郎と申します。京都府立医大卒業の消化器外科医師で、当院に令和2年に赴任し3年になりました。

当院は京都市北区の急性期総合病院として地域の皆様に親しまれて参りましたが、令和3年秋に京都府立医大附属病院と包括連携協定を結びました。具体的には、急性期先進医療病院である府立医大病院と、クリニック、在宅診療、慢性期病院、介護施設等との間の架け橋的な役割を担いながら、府立医大から支援を頂き、急性期から慢性期までの幅広い医療を行ない、地域の皆様に寄り添い皆様から信頼される地域中核病院を目指し、水野敏樹院長を先頭に職員一同日々頑張っております。

さて当院の売り物？の一つは、上層階病棟の窓からの素晴らしい眺望です。山が趣味である小生が当院から見える古都京都を取り囲む山々を紹介させていただきます。まずはデイルームの「紫明の窓」から北への眺望です。左に愛宕神社信仰の愛宕山（三百名山）が見え、近くには時計回りに五山送り火の左大文字山、船山、そして正面に棧敷ヶ岳、貴船山、鞍馬山等の北山の山々が続きます。北東遠くに冬にびわ湖バレイススキー場となる蓬萊山（三百名山）、手前に送り火の妙法が見え、その東に延暦寺で有名な比叡山（三百名山）が鎮座しています。

ではエレベーターホールの南向きの窓に移動しましょう。京都盆地一望の庄巻の眺望です。左から大文字山、山科盆地の向うに音羽山、更に將軍塚、清水山（清水寺）、稻荷山と東山の山々が続きます。正面左には伏見桃山城、空気が澄んだ日にはそのはるか遠方に日本百名山で近畿最高峰の大峰山八経ヶ岳の険しい山容が望めます。正面の京都タワーの右遠方には大阪府・奈良県境界の金剛山（二百名山）、生駒山が見え、西に目を移すと西山の天王山、ボンボン山、小塩山と続きます。現在は病棟にお入りいただける機会が少ないのが残念ですが、もし機会がありましたら素晴らしい眺望を楽しんで頂き、体力に応じた古都周囲の山歩き等を楽しませてはいかがでしょうか。

今月号の

窓

放射線科

人間味があり、患者さまのニーズに応えたいと考えているスタッフがお待ちしております。

定 昭彦

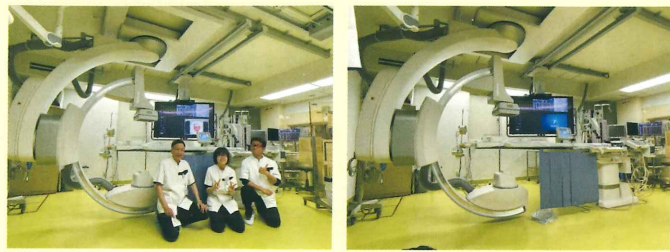


当院は、令和5年3月に血管撮影装置（キヤノンメディカルシステムズ Alphenix Sky-1 INFX18000C）に更新致しました。

最大の特徴は、従来の検査に比べて被ばく量が少なく、皮膚線量の計算値をリアルタイムに換算し、患者モデル上にカラーマッピングする機能があります。検査中、患者皮膚表面の被ばく状況をリアルタイムに把握することができ、かつ検査時間を短縮できるため、患者様の負担を軽減することができます。

MRI装置においては、令和元年より磁場強度1.5Tが稼働中です。体内から得たMR信号のデジタル化により、取得できなかった種類の画像を、最新のアプリケーション搭載により優れた高画質画像の提供が可能となり、様々な疾患の診断能が向上しました。

CT装置は、令和3年よりDeep Learning（深層学習）にて画像処理をする最新機能を搭載した80列ヘリカルCTが稼働中です。コンピュータに学習させる機械学習により、撮影時間の短縮化や放射線被ばく、造影剤の使用量も低減できました。



キヤノンメディカルシステムズ Alphenix Sky (INFX-8000C)

デジタル装置を一新し、FPDのダイナミックレンジをフルに活用。ハレーションの少ない画像を提供します。患者さまの皮膚表面の被ばく状況をカラー表示して、リアルタイムに把握することができます。

新入職員オリエンテーションの開催について

4月14日午後16時、新人研修が終わった後、病院から徒歩5分ほどの距離にある賀茂川河川敷で懇親会、レクリエーションを開催しました。院長、看護部長も参加されたこの企画は、ジェスチャーゲーム、鞍馬口医療センターに関わる〇×クイズが行われ、最初は、一般市民、観光客の視線を気にしていた新入職員も参加するうちに次第

に熱くなりあちらこちらから歓声、笑顔が多くみられました。

新型コロナウイルス感染症の影響でまだまだ歓迎会は自粛の傾向ですが、新入職員にとっては職種を問わず親睦が図れ職場に慣れる良いきっかけになったと思います。

総務企画課 北之防 健太



新医師紹介

- ①氏名 ②出身大学 ③専門領域 ④趣味、特技
- ⑤着任にあたっての抱負を一言



- ① 若林 直樹 (わかばやし なおき)
- ②京都市立医科大学 (昭和62年卒)
 - ③消化器病学、消化器内視鏡学
 - ④体を動かすことが好きです
 - ⑤これまでの経験を活かし、地域の皆様のお役に立てるように頑張ります。



- ① 金村 斉 (かなむら ひとし)
- ②京都市立医科大学 (平成13年卒)
 - ③スポーツ医学・膝関節
 - ④ランニング、登山、サウナ、サックス
 - ⑤スポーツ整形外科はもちろんのこと、地域医療に貢献できるように頑張っていきたいと思ひます。



- ① 藤岡 歩 (ふじおか あゆむ)
- ②大阪医科大学 (平成22年卒)
 - ③循環器内科
 - ④なし
 - ⑤丁寧な診療を心がけております。下肢虚血症状(距行安静時痛、下肢潰瘍など)あれば御相談下さい。



- ① 大西 伸和 (おおにし のぶかず)
- ②信州大学 (平成27年卒)
 - ③一般泌尿器科
 - ④スポーツ観戦
 - ⑤患者様に寄り添った医療を心掛けていきます。



- ① 東 瑛人 (ひがし あきと)
- ②滋賀医科大学 (平成30年卒)
 - ③消化器内科
 - ④卓球、映画鑑賞、ゲームのスマブラ
 - ⑤丁寧な仕事を心掛けます。



- ① 澤井 優樹 (さわい ゆうき)
- ②大阪医科薬科大学 (令和5年卒)
 - ③初期臨床研修医
 - ④ライブ、音楽フェスへ参加、筋トレ
 - ⑤医師として至らない点が多々あるかと思ひますが、是非機会があればご指導ご鞭撻の程、よろしくお願い致します。



- ① 池上 有美 (いけがみ ゆみ)
- ②滋賀医科大学 (平成21年卒)
 - ③麻酔全般
 - ④テニス
 - ⑤これまでの経験を活かして、貢献できるように頑張ります。よろしくお願い致します。



- ① 鎌田 陽介 (かまだ ようすけ)
- ②京都市立医科大学 (平成19年卒)
 - ③外科、消化器外科
 - ④登山
 - ⑤よろしくお願い致します。



- ① 三間 智恵 (みま ちえ)
- ②京都市立医科大学 (平成25年卒)
 - ③麻酔科
 - ④旅
 - ⑤手術室で働くみなさんのお力になりたいと思ひています。



- ① 毛受 奏子 (めんじょう かなこ)
- ②愛知医科大学 (平成28年卒)
 - ③神経内科領域
 - ④野球
 - ⑤これまでずっと急性期の病院で務めていたので勝手が違い、ご迷惑をおかけすることもあるかと思ひますがよろしくお願い致します。包括など地域密着型の医療機関の役割も身につけていけたらと思ひます。



- ① 竹村 優佳子 (たけむら ゆかこ)
- ②兵庫医科大学 (平成30年卒)
 - ③耳、鼻、咽頭、全般の一般診療
 - ④音楽鑑賞、旅行
 - ⑤地域の皆様のお役に立てるように日々の診療を頑張っていきますのでよろしくお願い致します。



- ① 柳井 輝 (やない ひかる)
- ②関西医科大学 (令和5年卒)
 - ③初期臨床研修医
 - ④囲碁
 - ⑤医師として知識や技術を身につけるために頑張ります。至らない点も多々あるかと思ひますが、ご指導ご鞭撻の程、よろしくお願い致します。

市民公開講座

リハビリテーション科 坂田理恵子

今回の市民公開講座では、高齢者の健康維持にとって大切なテーマの一つである嚥下障害について、前半は栄養管理室の田川室長から「嚥下しにくい方の食事」、後半はリハビリテーション科 言語聴覚士の坂田から「誤嚥性肺炎を防ごう！美味しく食べ続けるために」と題してお話させて頂きました。テーマに興味を持ち来院頂いた方、外来受診時に立ち寄って頂いた方、入院患者様などがご参加下さいました。前半では嚥下食の調理方法、とろみ剤の使い方など、実物も示しながら説明を行いました。後半では嚥下のメカニズム、誤嚥性肺炎の予防方法をお伝えし、後下おでこ体操の実演を行いました。

参加者からは「80代になり飲み込みにくさを感じていた。講座を聞いて自分によく当てはまると思ったので、これから気をつけるようにしたい。」との声や「食後に逆流症状がある」といったご相談がありました。今後も地域の皆様に有益な情報を発信していきたいと思えます。



栄養管理室

熱中症予防

水分補給のコツ

今年も暑い夏が近づいてきました。ときに命の危険を伴う熱中症予防のために水分補給が大切です。



1 「のどが渇く前」に「こまめ」な水分補給を！
軽い脱水状態ではのどの渇きを感じないことが多く、特に高齢の方ではその傾向が強くなります。のどが渇いていなくても、こまめな水分補給をこころがけましょう。



2 水分補給には「水」や「麦茶」を選びましょう！

毎日飲むなら、カフェインも糖分も含まない水や麦茶を望みましょう。カフェインが含まれる緑茶やコーヒーには利尿作用があるため、好ましくありません。また、糖分の多いジュースなどは血糖値が上がってしまう可能性があるため、「お楽しみ」程度にしましょう。アルコールは水分補給にはなりません。

3 運動するときは「水分」と「塩分」補給を！

運動するときや大量に汗をかくときは、水分と塩分を含むスポーツ飲料や経口補水液の摂取がオススメです。暑い時の運動はこまめに休憩をとり、水分と塩分の補給をするようにしましょう。

* 水分や塩分の摂取に関しては疾患によって制限のある方もありますので、主治医と相談するようにしてください。

